



受講生と指導した学生の作品展

『版画でつくる自分ワールド!』

会 期：2025年8月5日(火)～9日(土) 10:00～17:00
※8/5は13時より、8/9は15時まで
会 場：町田市立国際版画美術館 市民展示室A室

受講生28名のTシャツ作品は天井から吊り下げ、紙作品 3 枚の内 1 点はマット装にして下絵シートとともに壁面に展示し、全員の作品をつなげたタピストリーも飾った。また、どのような版から多色刷り版画ができたか分かるように展示室の中央には版も展示した。さらに、回転版画のしくみ、スタンプ形式による多色刷り制作の説明としてビデオ上映とパネル展示も行った。特に子どもたちの1日の活動をまとめたビデオは好評だった。本展は指導にあたった大学生12名の作品も展示して多様な版画表現を紹介することもできた。期間中、352名が子どもたちの作品を鑑賞した。



【パネル展示】

❶「子ども講座の一日」本講座は小学生を対象としているため、活動のようすを友達が見ても理解できるようにパネル展示とビデオ上映で1日の活動を表した。

❷「オリジナルTシャツを着てみたよ」出来上がったTシャツを着て、全員で記念撮影をし、その後1人ずつ思い思いのポーズをしてもらって個人撮影をした。



【受講生作品の展示】布と紙といった素材の違いによって作品の印象は変わってくる。前者は布目に若干凹凸があるため柔らかな色調に見える。Tシャツは2枚を背中合わせにした状態で吊り下げ、紙作品はマット装にして下絵シートといっしょに壁面展示を行った。



【版の展示】1枚の版からつくる回転刷りの仕組みを理解してもらうために版と作品の展示も行った。同じインクを使っても、版にのせる量や刷り方によって多彩な作品ができることを示すため、タピストリースタイルの共同作品（写真左上）の展示も行った。



【学生作品の展示】指導にあたった学生の作品も展示した。今回は銅版画、スクリーンプリント、木版画などの自由作品の他に、研究室が所有する復刻浮世絵版木を利用した作品を紹介した。
＊写真は溪斎英泉および歌川広重による「木曾街道六十九次」に新たなデザインを加えて制作した木版画

受講生の声（感想文より一部抜粋）

▶世界に1つだけのふくができてうれしかった。もう一かいやりたい。(3年) ▶ちょうこく刀をつかうのがたのしかった。いろいろなことをおしえてくれてうれしかった。(3年) ▶回してみると、色々な形ができておもしろかった。一つの形からたくさんのもようが生まれた。(3年) ▶ほるのがむずかしかったです。赤と青と黄色を組み合わせた色がきれいでした。Tシャツに色をのせた時が楽しかったです。(3年) ▶Tシャツの色は赤・黄・青というじゅん番でやったのもいいと思いました。とくに好きなのは青です。なぜなら、全体をまとめる感じがきれいだからです。(4年) ▶ちょうこくとうもはじめてつかったのでいしょはむずかしかったけどさいごは楽しくなりました。(4年) ▶はんをほるのが楽しかった。重ねて色かわるのがおもしろかった。(4年) ▶ほるのが楽しかった。カーブが上手にできた。SPばんをTシャツにのせるのがむずかしかったけど、うまくいって、楽しかった。(4年) ▶最初は彫刻刀でほることが少しむずかしかったけどじょじょになれて楽しかったし、最後のできあがった時がうれしかったです。(5年) ▶回さないほうがいいとおもったけど、回してもきれいだった。するところをがんばった。▶赤と黄色をすったときは、じみだとおもったけど青をすったらきゅうにいんしょうがかわってたのしかった。(6年) ▶回転版画は初めてだったので、ワクワク、ドキドキしてグラデーションがきれいにできてよかったです。(6年)

指導した学生

楠本 京香 畠山 千陽 波多 汐音 内館 凜 佐藤 愛結 清水 ふみ子
藤田 英珂 宮本 結衣 秋山 倫太郎 足立 なずな 石田 来夢
入口 明莉 川崎 風蘭 竹内 南央 田村 光汰郎 野村 真央
松田 紗和 山内 凜 山崎 幸大 (3年生3名、2年生5名、1年生11名)

2025年度「夏期子ども講座」活動報告書

発行年月日 2025年10月31日
編集・印刷 東京学芸大学 清野泰行研究室
発 行 町田市立国際版画美術館

この冊子は100部作成し、1部あたりの単価は465円です（職員人件費を含みます）

2025

町田市立国際版画美術館
2025年度夏期子ども講座 活動報告書

「版画でつくる自分ワールド!」

～回転版画でオリジナルTシャツをつくろう～



町田市立国際版画美術館では、子どもたちが美術館に親しむことをねらいとして、2006年から継続的に「夏期子ども講座」を実施しています。当初から東京学芸大学版画研究室の清野泰行教授の企画協力により、様々な版画技法を取り上げ、制作する楽しさをじかに体験してもらう場を提供してまいりました。今年は「版画でつくる自分ワールド」をテーマに回転版画によるTシャツ作りを行いました。出来上がった作品を鑑賞するだけでなく、世界に一つしかないTシャツを着て楽しむことができる活動をご覧ください。

講座概要

タイトル：「版画でつくる自分ワールド!」～回転版画でオリジナルTシャツをつくろう～

内 容：自分のお気に入りの図柄を彫った正方形の版を回転させて、美しい多色刷り版画の世界をつくる。

日 時：第1回7月26日(土)、第2回7月27日(日) 10:30～15:30 途中、昼食・休憩を含む

会 場：アトリエ・版画工房

対 象：小学3～6年生 定員：各回15名（参加者数：1回目14名、2回目14名）、受講料：2,000円

指 導：東京学芸大学 清野泰行および同大学在学学生19名 ＊Tシャツ代金を含む

主 催：町田市立国際版画美術館 企画/協力：国立大学法人東京学芸大学

回転版画とは

正方形の版（ベニヤ板や*SP板）1枚を用い、色を変えるごとに版を90度回転させて重ね刷りする技法。図柄の形が複雑に重なり合い、思いもよらない模様と色彩豊かな作品を作ることができる一版多色刷り技法の一つである。この技法はこれまでの夏期子ども講座で4回取り上げている。

- 準備するもの
- 【下 絵】：下描き用紙（受講者に事前送付・画面サイズ：17cm×17cm）、オリジナル図案集
- 【転 写】：A4判トレーシングペーパー（1人1枚）、カーボン紙（黒・17×17cm）、筆記用具
- 【版作り】：*SP板（4mm厚・17cm×17cm）、彫刻刀（丸刀3mm/6mm・三角刀4.5mm）、彫り台（1人1台）
- 【刷 り】：Tシャツ（白・1人1枚）、版画用紙（21×21cm,1人3枚）、**ダイカラー（水溶性スクリーンプリント用インク：牡丹、青黄、空）、**アクリル絵具（マンガニーズブルーフタロ）、**シルクスクリーンメディウム（ターナー色彩：U-35）、***SN水溶性透明版画絵の具（赤・黄・藍）、***アクアメディウム（透明）、スポンジローラー、インクトレー、バレン、マスキングテープ、版を水洗いするスポンジ
- *SP板については同頁【彫りの練習】を参照、**は布に印刷する際に使用、***は紙に印刷する際に使用

凸版による布への印刷

大きな図柄をTシャツに版画で印刷する場合、通常スクリーンプリント技法を使うことが多いが、今回、特別な道具や機材を使わない、凸版による布への多色刷りの可能性を見出すことができた。

刷りの準備

Tシャツと紙では刷り方に違いがある。
前者はスタンプのように版を裏返して裏側から圧をかけるのに対して、紙の刷りでは、版面を上向きに置いて紙をのせ、紙の上からバレンでこすって印刷する。そのため、版をおく位置の目安となる見当（写真のグレー部分）もTシャツと紙では左右逆になる。



【Tシャツの準備】Tシャツは1人1枚、希望のサイズを用意した。また、シワができないように中にボール紙の芯を入れ、大きめのビニールで包んで汚れないようにした（黄色のテープで囲んだビニール部分は切り抜いてある）。また、見当は1mmほどの厚みがあり、版が引っかかるようになっている。



【紙の準備】紙は、あらかじめ3枚の版画用紙を見当シート（台紙）にテープで留め、それぞれ表面が見えるように開いておいた。インクをのせた版を見当に合わせて置き、紙を閉じるように版の上のにせ、バレンでこすって印刷する。この工程を繰り返し、同じ色で3枚刷り終わったところで、次の色の準備に取りかかる。

回転版画と下絵作りの説明（10分）

下絵作りと転写（30分）

彫りの説明（10分）

版作り（70分）



【回転版画の説明】回転版画のしくみを理解してもらうために、どのように図柄と色が重なっていくかをスライドで分かりやすく説明した。最終的にどのような作品になるのかイメージを持ってもらうために、色の三原色（マゼンタ、イエロ、シアン）に近い赤・黄・青の版画絵具を使った重ね刷りの工程を説明した。



【彫りの練習】ほとんどの3,4年生は彫刻刀を初めて使うため、班講師が丁寧に指導した。SP板は版画専用の樹脂板。適度な硬さがあり、木目がないため彫りやすく、片面が水色のため彫ったところの分かりやすい。また、刷りの色を変えたい時、インクをきれいに洗い流すことができるため回転版画に適している。



【下絵作り】講座テーマである「自分ワールド」になるように、持参してきた下絵シートを見ながらアドバイスをした。また、当日用意した図案集も参考にしてもらった。完成した下絵シートにトレーシングペーパーをのせて輪郭線を写したものを裏返し、カーボン紙を間に挟んでSP板に下絵を転写した。



【彫りの仕上げ】回転版画は図柄の部分を彫る方法（陰刻法）で版をつくるため、彫り時間が短く、より多くの時間を刷りに使うことができる。輪郭線だけを彫るのではなく、面（広い部分）も彫ることで、色彩豊かな作品となる。初めて彫刻刀を使う受講生や複雑な下絵の場合は、必要に応じて班講師がサポートして版を完成させた。

Tシャツへの刷り方の説明（5分）

刷りの練習（15分）

Tシャツへの刷り（30分）



【Tシャツへの刷りの練習】Tシャツへ刷る際は、最後の青色が下絵と同じ向きになるようにした。版の裏の角に印を付けて、版の向きと刷る色を間違えないように工夫した。*写真は裏面に印を付けた版を見当に合わせて置く練習をしているところ



【Tシャツへの刷り（黄）】回転版画で使用するインクの色は、最後の刷りで色と形が最も変化して見えるように赤・黄・青の順番で重ねた。特に黄色は薄くならないようにしっかり版を押さえつけると良い。黄色を刷り終わったら、版をよく洗い、最後の青の準備に取り掛かった。

版画用紙への刷り方の説明（5分）

版画用紙への刷り（30分）

作品選び感想文（15分）

記念撮影（10分）



【版にインクをのせる】Tシャツへの刷りが終わったところで、版画用紙への印刷方法を説明した。紙への刷りは各自で進めるため、部屋の前方にインク（水溶性透明版画絵具）をのせる場所を作り、全体の進み具合をみながら、次の色に順次取り替えていった。



【第1回目の受講者のみなさん14名】

版画の魅力は、作品を作って鑑賞するだけでなく、Tシャツなどに刷ることで実生活の中でアートを楽しむことができることだ。子どもたちは講座の感想文を書いてから、完成したTシャツを着て美術館のロビーで記念撮影を行った。明るい表情から達成感、満足感を伺うことができる。同じ色のインクを使っても、彫りや刷り方の違いによって、バラエティー豊かな作品ができるのも回転版画の魅力である。



【Tシャツへの刷り（赤）】洗剤にも色落ちしづらいスクリーンプリント用インク（ダイカラー）の赤をスポンジローラーで版にのせてからTシャツの上に裏返して置き、両手でしっかりと押さえた。SP板はインク離れが良いため、平らな布にもインクを写すことができる。



【Tシャツへの刷り（青）】重なり合った色が鮮やかになるように、青色のみダイカラーに通常のアクリル絵の具とスクリーンプリント用メディウムを混ぜたものを加えた。最後の青の刷りで、一気に色彩豊かな作品に変化する様子を見て、子どもたちから歓声が上がった。



【版画用紙への刷り】色を変えるごとに版を90度回転させバレンで刷り重ねた。写真は2回転目、最後の青色の刷り。赤と青は透明メディウムを加えて透明感を高め、重なり合う色の調子がはっきり出るように工夫した。のせるインクの量の違いで色々なバリエーションができた。



【第2回目の受講者のみなさん14名】